

「 家庭基礎 」 学習指導案	
単元	住生活を営む 使用教科書 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)
指導の立場	<p>【教材観】 住まいは人間にとって必要不可欠な生活の基盤である。日本では戦後の住宅不足や高度成長期の住宅需要の急増を背景に、大量に供給されてきた。80年余りが経過した現在、住宅水準の低さや寿命の短さ、自然災害への対応など様々な課題が浮き彫りになっている。これからの住生活に関する学習においては、個人として生活空間を整えるスキルを身に付けることに留まらず、地域の一員として「持続可能な人間居住」を追求する姿勢を身に付けることが求められる。このことは、消費者市民としての資質とも重なると考えられる。</p> <p>【生徒観】 本校が位置する地域では、少子高齢化・人口減少が大きな課題となっている。少子化に伴い、地区に6つあった中学校は今年度1校に統合された。本校自体も統廃合を経て、地区唯一の高校となってから5年が経つ。生徒たちは、総合的な探究の時間の活動を通じて地域への理解を深めるとともに、将来を見据えたまちづくりの課題を知り、解決策を考える。町役場主催のまちづくり会議に生徒が参加するなど、地域の住まい方について考える機会が豊富な環境である。</p> <p>【指導観】 「持続可能なまちづくり」をテーマに、地域の住まい方について考える。「将来この町で生活したいか」という身近な質問をきっかけに、世界的な人口増加や都市部の人口集中による住まいの課題についても知らせることで、地球の一員として人類が継続的に住生活を見直す必要性を理解させたい。また、互いの考える「住み続けられるまち」を表現し合うことで多様な手段と可能性を見いだすとともに、持続可能な住まい方を追求する姿勢を育みたい。</p>
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の役割を多面的に理解し、主体的に住生活を営むことができる。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・住居と地域社会との関わりについて考え、社会の一員として行動する必要性を理解する。

単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
家族生活の場としての住居の条件について、生涯を見通し考えようとしている。	ライフスタイルや価値観に応じた選択について主体的に考えることができる。 地域の一員として持続可能な住環境の実現に必要な行動を考えることができる。	自身の住環境を安全快適・健康の視点で検討することができる。 防災などの安全や環境に配慮した住居管理に必要な技能を身に付けている。	住居の機能や住空間の計画について科学的に理解している。 社会の一員として責任を持って行動できるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

単元の指導計画及び評価規準

時数	主な指導内容・ 学習内容	評価規準	評価の観点				評価方法
			関	思	技	知	
1	住居の機能と変化	<ul style="list-style-type: none"> 生活行為と住居の関係を理解し、間取り図から生活上の課題を発見することができる。 					ポートフォリオ
2	住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> 安全・健康・快適を実現するために必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付けている。 自身の住空間を振り返り、改善方法を考え実践しようとしている。 					ポートフォリオ
1	住まいの選び方	<ul style="list-style-type: none"> ライフスタイルや価値観に応じた選択について主体的に考えることができる。 		○			ワークシート ポートフォリオ
1	家庭での備え	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害に対する防災対策について理解し、生活で実践しようとしている。 	○			○	ポートフォリオ
1 (本時)	これからの住生活	<ul style="list-style-type: none"> 個人の住まい方と社会とのつながりに関心を持ち、社会の一員として行動しようとしている。 安全性や持続可能性など、多様な視点から情報を検討することができる。 	○	○			ワークシート ポートフォリオ

本 時 案

主題	住み続けられるまちづくり～地域の一員・地球の一員として考える～			
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の住まい方と社会とのつながりに関心を持ち、社会の一員として行動しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・安全性や持続可能性など多様な視点から情報を検討することができている。 【思考・判断・表現】 			
	学習活動	指導上の留意点	時間	評価及び備考
導入	1 本時の学習内容を知る	○本時は住生活について地域の視点から考えることを知らせる。	3	ポートフォリオ
展開	【発問】あなたは卒業後、このまちに住み続けたいと思いますか？			
	2 住みやすさについて考える	○【発問】に対する答えを挙手で表明させる。 ・地方の生活と都市部の生活の違いを確認する。 ・都市部の現状と予測・課題を解説し、都市部に行けば住みやすさが保障されるわけではないことを理解させる。	10	ペアでの話し合い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〈都市部の現状と予測・課題〉 ・世界的な人口増加 ・都市部への人口集中による都市インフラの限界 ・都市のエネルギー消費の多さ、環境問題への対処の必要性 ・自然災害による停電・断水時の高層マンションに対する影響 など </div>
	3 「住み続けられるまち」を考える	○自分の考える「住み続けられるまち」を言葉と図で表現させる。 ・単元の学習を振り返り、生活の基盤として重視したい視点を決定させる。 ・ワークシートを参考に、まちの構成を考えさせる。 ○グループごとに発表し、互いの思考から持続可能なまちづくりに必要な視点を深める。	20	ワークシート ≪参考≫学習教材「防災まちづくり・くにづくり」(内閣官房) 災害に強いまちをつくらう p.16・17 15 グループでの話し合い 【思考・判断・表現】
まとめ	4 本時のまとめをする	○地域の一員として行動する必要性を伝える。 ・本時の学習内容を自分の言葉でまとめさせる。	5	ポートフォリオ 【関心・意欲・態度】

本時の評価

本時の学習活動に即した 評価規準	おおむね満足できる状況	評価方法
<p>個人の住まい方と社会とのつながりに関心を持ち、社会の一員として行動しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>安全性や持続可能性など多様な視点から情報を検討することができている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>	<p>自身の住生活を見直すこと・地域の一員として行動することの重要性について記述できている。</p> <p>持続可能なまちづくりに関わる要素を、話し合いを通じてより多く発見することができている。</p>	<p>ポートフォリオ</p> <p>ワークシート</p>

まちづくりワークシートの参考資料

学習教材「防災まちづくり・くにづくり」(内閣官房) p16-17 災害に強いまちをつくろう

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/textbook.html